

2021年度 第6回 現代文化人類学会（旧早稲田文化人類学会） 定例研究会

発表者：山下彩香（ハーバード大学デザイン大学院修士課程修了／EDAYA 共同代表）

日時：2021年12月11日（土）10時00分～

**\*発表者はアメリカ在住のため、いつもと曜日と時間が異なります！**

場所：Zoomによるオンライン開催

\*どなたでもご参加いただけます。ただし、オンライン開催のため、事前申込が必要です。

12月8日（水）までに下記のGoogleフォームを通じて申し込みください。12月9日（木）以降、参加申込をされた方のみ、ZoomのURLをお送りします。

<https://forms.gle/4B5nCkrrx8YmhKp98>

タイトル：

空間デザイン×人類学——感覚デザインフィールドワークの提案

要旨：

本報告では、デザインと人類学の関わりを、ハーバードデザイン大学院での最新の論考を踏まえ、紹介すると共に、発表者の現在地を示し、議論することを試みる。まず、建築、ランドスケープデザイン、都市計画を軸とした建築系大学院である同校を今年5月に卒業した発表者が、デザイン人類学、心理地理学、聴覚×地図（Cartographic Audition）といった授業を通して学んだことを、ランドスケープ、サウンドスケープ、地図、フィールドワーク、境界、五感、身体性といったキーワードを通して、紐解いてゆく。

次に、難民の再定住先における社会的孤立の問題に着目し、発表者が制作した論文「社会統合のためのサウンドスケープの構築——マサチューセッツ州ウースター市のブータン難民のお年寄りの心理地理」を通して、空間デザイン×人類学について、具体例から把握する。さらに、上記を踏まえ、これらの試みをどのように実際の社会問題や環境問題の解決に繋げようとしているのか、現在取り組む、同校クリティカルランドスケープデザイン研究室でのリサーチ活動やユネスコのフューチャーズ・リテラシーラボでの経験を紹介する。

最後に、発表者の長年のフィールドであるフィリピン北部の少数民族地域でのデザインスクール構築に向けて、現在進行中の議論である、感覚デザインフィールドワークのカリキュラム導入について、その提案を紹介し、議論を深めていきたい。

お問い合わせ：

現代文化人類学会定例研究会ワーキンググループ

箕曲在弘

minoo [a] waseda.jp

\* [a]を@に変えて送信してください。